

令和元年6月26日現在

機関番号：14301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K13202

研究課題名（和文）文化装置としての「師弟関係」に関する歴史社会学的研究

研究課題名（英文）The Master-Disciple Relationship as Cultural Apparatus: a historical-sociological analysis

研究代表者

稲垣 恭子 (Inagaki, Kyoko)

京都大学・教育学研究科・教授

研究者番号：40159934

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、自伝や小説、師弟論などの資料を量的・質的な視点から分析し、各界における師弟関係を掘り起こし、独自のしくみや問題等について考察した。そのなかで、（1）1970年代までは界を問わず役割関係のなかに「師弟関係」が埋め込まれた関係性が存在していたこと（2）界によって、「師弟関係」のしくみや機能、また問題性のありかたも異なっていること（3）メディアを介した「師弟関係」が拡大しつつあること、などが明らかとなった。計測不可能な教育関係やしくみが、さまざまな形で近代的な組織の深層部分を支えてきたことを明らかにした点が重要な成果である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

（1）「師弟関係」を文化装置としてとらえる新しい視点の提示（2）秤取分析、自伝分析、質問紙調査を組み合わせることによって、「師弟関係」の実証的研究（3）制度化されない「私淑」の機能（4）教育組織および社会組織の表層だけでなくそれを支える深層部分との関係を明らかにしようとした点などが、学術的意義である。「師弟関係」について、タテの抑圧的な側面や制度化された関係という側面だけでなくその意味や機能を内面的に問い直すことによって、社会における「師」の意味や、教育における「背のび」願望を見直す点などに社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）： This research analyzes the 'master-disciple' relationship across a range of fields, both quantitatively and qualitatively, utilizing various materials including autobiographies, novels, and education-related materials. The results are as follows: Until the 1970s, 'master-disciple' relationship embedded in role relations could be identified in various dimensions, regardless of the 'field', however the structure, function, and problems of the 'master-disciple' relationship differ from one 'field' to another. Meanwhile, in recent years there has been an expansion of the indirect relationship between master and disciple through media ('Shishuku'). These findings reveal the importance of accounting for an intangible deep structure and set of relationships that underpin modern social organizations.

研究分野：教育社会学

キーワード：師弟関係 歴史社会学 教育社会学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「師弟関係」というテーマは、「師弟関係」を通じた「教える」「学ぶ」ことの本質の哲学的研究、師弟論の思想史的研究やその制度的位置づけなど、主に教育哲学、教育思想史研究のなかで行われてきたが、社会学的な視点から「師弟関係」の内実に踏み込んだ研究は必ずしも十分に行われてこなかった。本研究は、これらの先行研究をふまえ、「師弟関係」を社会学的な角度から捉えなおすための理論枠組の検討と、それに基づく実証的研究を行なうことによって、近年の「学び」をめぐる議論に新しい視点を導入することを目指してスタートした。

研究代表者は、自伝分析を軸とした近代日本の子ども時代・青年時代の共同研究のなかで、自分語りにとって「師」や「先生」の存在が重要な位置を占めていること、その語り方にもさまざまなタイプがあることに注目し、それらを分析するための概念図式の検討とパイロット的な分析を行ってきた(稲垣 2011、2013)。その知見をベースに、近代日本における「師弟関係」の意味とその変容の過程を歴史社会学的な視点から捉えなおすことによって、現代の教育関係に新たな光をあててみたいというのが、本研究に至った経緯である。

2. 研究の目的

本研究は、「師弟関係」をキーワードに、伝統的な師弟制度から現代のメディアを介した間接的で私的な「師弟関係」(「私淑」)まで視野に入れ、文化装置としての「師弟関係」の意味とその変容の過程を歴史社会学的な角度から明らかにすることを目的としている。より具体的には、(1)「師弟関係」の類型とその変容をとらえる理論枠組を設定し、(2)それに基づく小説や師弟論などの表象分析、(3)自伝資料を用いた量的・質的分析を行なうことによって、制度化された「師弟関係」から「私淑」を含む多様な「師弟関係」へと変容していく過程を実証的に明らかにすることである。本研究は、これまで専ら教育理念や制度的研究の中で扱われてきた「師弟関係」を、文化装置という視点からとらえ直すことによって、教育の歴史社会学に新しい領域を切り開こうとする試みである。

3. 研究の方法

(1) 理論枠組・分析枠組の設定：文化装置としての師弟関係の類型と時間的変化を分析するための理論枠組・分析枠組を検討し、それに基づいて師弟関係の類型化を行った。

(2) 師弟関係の表象分析：師弟関係について扱った師弟論や人生論、小説等のなかで主なものを取り上げ、師弟関係がどのように表象されてきたのかを分析した。

(3) 自伝資料を基にした師弟関係の量的分析：既に着手し、ある程度分析を進めているパイロット的研究(稲垣・濱、2013)をもとに、さらに資料の収集と分析を行った。特に、戦後生まれ世代と女性について、さらに資料の収集と分析を進めた。これらの分析から、世代、職業、性別等による師弟関係の特徴や変化の全般的な傾向を抽出した。

(4) 師弟関係の各類型のなかで特徴的な事例をいくつか取り上げて、詳細に検討した。

* 伝統的師弟関係の事例分析：伝統的な師弟関係が制度化され維持されてきた伝統芸術・芸能の世界を対象に、具体的な人物に焦点をあてて師弟関係の内実を検討した。文献資料、自伝資料の分析を行なうと同時に、インタビューも実施した。

* 人文系学問における師弟関係の事例分析：フォーマルな師弟制度ではないが、講座、学派など慣習化された形で存在してきた師弟関係について、具体的な事例をもとに分析・考察を行った。

* 「私淑」の類型と事例分析：制度化された師弟関係とは異なる私的で間接的な擬似師弟関係

の系譜として「私淑」に焦点をあてて分析・考察した。特にメディアとの関連に注目して分析を行った。

(5) 師弟関係をめぐる光と影：上記の知見をまとめ、師弟関係の光と影および現代における「師弟関係」の意味について考察した。

4. 研究成果

本研究では、自伝や小説、師弟論などの資料を量的・質的な視点から分析し、各界における師弟関係を掘り起こし、その独自の仕組みや問題などについて考察した。簡単に結果をまとめると以下の通りである。

(1) 1970年代までは、伝統産業だけでなく学校や企業などの近代的組織においても役割関係の中に「師弟関係」が埋め込まれた関係性が存在していた。

(2) しかし界によって、「師弟関係」の仕組みや機能、またそのねじれや問題性、回避の仕組みもそれぞれ異なっている。

(3) 現代においては古典的な「師弟関係」は消失しつつあるが、一方で間接的な「私淑」がさまざまな形で拡大しつつある。

(4) 近代的な組織においても、計測不可能な教育関係や仕組みが組織の深層部分を支え機能してきた。

以上の研究成果の学術的・社会的意義は、以下の通りである。

(1) 「師弟関係」を文化装置として捉える新しい視点を提示したこと

(2) 自伝や小説、師弟論などの資料を用いて「師弟関係」の表象を明らかにしたこと

(3) 制度化されない「私淑」の機能を明らかにしたこと

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 29 件)

稲垣恭子「文化としての『師』の存在に学ぶ」(百花繚乱 エネルギーに一言)
『エネルギーレビュー』 2017年10月号 査読無 53-53

稲垣恭子「男女別学の時代と女学校文化」『京都市学校歴史博物館研究紀要』第6号
2017 査読無 3-15

稲垣恭子「『師弟関係』の社会史 第40回(完) それでも『師』への憧れはなくなる
『内外教育』 第6572号 2017 査読無 14-15

稲垣恭子「師弟関係をめぐる感情と勘定」『ソシオロジ』第186号 2016 査読無
91-94

稲垣恭子「『師弟関係』の社会史 第24回 師弟の確執」『内外教育』 第6482号
2016 査読無 8-10

稲垣恭子「『師弟関係』の社会史 第11回 各界リーダーに見る師弟関係」『内外教育』
第6426号 2015 査読無 7-9
(他 23 件)

[学会発表](計 4 件)

稲垣恭子「ミッション系女学校の教養文化」(講演)宮城学院女子大学 大学開設70周年
記念事業プレ企画「東北における女子ミッション教育の社会史」宮城学院女子大学
2018年11月24日

稲垣恭子「グローバル化する社会とナショナルリズムの現在(Current Globalized Society and

Nationalism)」(パネリスト) 京都大学大学院教育社会学講座主催、京都大学教育学部、2019年2月16日

稲垣恭子(基調講演)「男子の教養、女子の教養 - 旧制高校と女学校 -」旧制高等学校記念館第22回夏期教育セミナー 2017年8月19日

稲垣恭子 「師弟関係の昔と今」茨城県高等学校教頭・副校長会議講演会 茨城県教育研修センター 2015年11月4日

〔図書〕(計 4 件)

稲垣恭子他 岩波書店『教育社会学のフロンティア 2 変容する社会と教育のゆくえ』序章「教育現象をどう解読するか」2018,296

稲垣恭子他 協同出版『教職教養講座第12巻 社会と教育』「近代教育の表層と深層」9-12 2019.272

稲垣恭子・高見茂・田中耕司・矢野智司編 協同出版『教職教育論』(教職教養講座第1巻)「教師・生徒関係と教師文化」(第4章) 71-89、2017、280

稲垣恭子 放送大学教育振興会『教育文化の社会学』2017、220

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕(計1件)

稲垣恭子「教養・ジェンダー・教養教育」2019年1月 査読無 5-22
『第66回中国・四国地区大学教育研究会報告書』(講演記録)

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。